

国立国語研究所学術情報リポジトリ

本号の読みどころ

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-03-05 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://repository.ninjal.ac.jp/records/1893

や現職教師とともに何か新しい発想に取り組む上での課題を例示した、今後の発展が望まれる論文と言えるでしょう。(金田智子)

◇研究ノート：野口直子・及川千代香・本間淳子「日本語教師のための Cooperative Development –教師としての自己成長をめざして–」

私たち教師が、毎日の実践の合間を縫って教授活動を振り返り、改善するには、何らかの意識的な行動が必要です。Cooperative Development (以下 CD) は、複数の教師が共同で改善を試みる方法の一つです。「本研究ノート」は、日本語教育ではおそらく最初の CD の実践報告であり、その枠組みをわかりやすく説明しています。CD において各参加者に与えられる役割配分と、定期的な振り返りの設定は、少し不自然に感じられるかもしれませんが、その枠組みによって確実な振り返りの場が与えられます。そこには、実際に CD を試みたい場合はもちろん、一般的な振り返り、改善にも取り入れられる点がいくつかあります。今回の報告では、問題を特定するという CD の前半の段階が中心ですが、この後実際に改善する行動の部分までを分析し、また報告されるのを期待しています。なお Julian Edge による 1992 年の原著は、以下のサイトでほぼ全文が閲覧できます。

<http://www.aston.ac.uk/lss/research/prodd/CD/>

(根津 誠)

◆研究ノート：三宅若菜・福島智子「自律学習を基盤とした個別対応型日本語授業に関する一考察 –教師の役割を手がかりに–」

学習者の多様性に対して教師はどのように対応すればいいのでしょうか。その一つの方法として、学習者の自律学習支援を目的とした様々な実践や取り組みが行われています。

本研究ノートでは、この自律学習支援を目的とした個別対応型の授業実践を通して、学習支援者としての教師の役割について検討しています。具体的には、この個別対応型の授業においては、教師は学習支援者としての役割が求められますが、実践を通して自身の教師としての役割についての考えや行動がどのように変化するのか、ナラティブアプローチ(詳細は本文参照)の手法を使って具体的に記述し、丁寧に説明しています。

対象となったデータが教師2名と少ないことが残念ですが、今後データを蓄積していく、あるいは縦断的な調査をすることなども期待されます。しかし、何よりナラティブアプローチを使っている点が手法的におもしろく、様々な現場で取り組まれている自律学習支援においても、その過程における教師自身の教育観や実践を振り返る手法として、参考になるものと思われます。(小河原義朗)